

## 【密着レポート】Action!Fesで見えた『動く北九州』

### —Z世代の私が確信した「北九州の明るい未来」—

#### 学生記者が飛び込んだ「変化」の最前線

北九州で生まれ、北九州で育った20年間。正直に言えば、これまでの私はこの街に対して「どこか元気がなくなっていく場所」という漠然としたイメージを抱いていました。しかし今、街の空気が明らかに変わり始めています。

「今の北九州で何が起きているのかを知りたい。そして、その魅力を同世代に伝えたい。」そんな思いから、私は今回、学生記者として『Action!Fes』に密着しました。単なるイベント取材ではなく、この街の「今」を再発見し、私たちが社会へ踏み出すヒントを探るための挑戦でした。

#### 小倉駅に現れた真っ赤なステージ：Action!Fesとは

2026年2月8日。10日の北九州市政発足の日在先駆けて、北九州市の中心である小倉駅でイベントが開催されました。

会場のJAM広場に一步足を踏み入ると、テーマカラーである赤一色に染められた活気あるステージが作られていました。スタート前からDJがプレイする最新ヒット曲と懐かしのリミックスが響き渡り、駅という日常の空間が、一瞬にして特別な「まつりの場」へと塗り替えられています。

メインステージを囲むのは、立ちのぼる湯気と魅力的な匂いを放つ地元グルメブースの数々。老若男女が足を止め、豪華ゲストの登場を待ちわびるその活気は、まさに今の北九州が持つ「巻き込む力」を象徴しているようでした。



#### データが証明する「右肩上がりの北九州」

メインステージには、武内和久市長、ロバートの馬場裕之さん、インフルエンサー・実業家のゆうこすさん、そして北九州市のクリエイティブディレクターを務める下川大助さんという、今の北九州を牽引し、象徴する豪華な顔ぶれが集結しました。

特に私の目を釘付けにしたのは、武内市長によるプレゼンテーションです。

## 「市政史上、8つの過去最多を記録」

人口流出や高齢化といったネガティブな文脈で語られがちだった北九州市ですが、事実は全く逆でした。企業誘致の成功による港湾・空港貨物量の大幅増、それに伴うU・Iターン就職者の増加。さらには小倉城の入場者数やモノレールの輸送人員までが過去最高を記録しているという「好循環」のデータに、会場からは驚きの声が漏れました。

「ものづくりの街」という伝統を守りつつ、「公害克服の環境都市」「夜景の街」「映画の街」「すしの都」「うたのまち」……と多角的に魅力を研ぎ澄ます今の北九州。市長の熱を帯びた言葉から、この街にはまだ見ぬポテンシャルが眠っているのだと、確信しました。



現在の北九州市についてプレゼンテーションする武内市長

## グルメブース密着：馬場さんと歩いて感じた「地場の力」

イベント中、私は学生記者として、ロボットの馬場裕之さんと共に全てのブースを生配信しながら周回するという貴重な体験をしました。そこで目にしたのは、郷土料理をベースにした新しい食だけでなく、カードゲームやランジェリーといった多岐にわたる「北九州ブランド」の可視化です。

特に印象的だったのは、馬場さんが自らプロジェクトを立ち上げた「こぶみかん」のブース。馬場さんの出身中学の跡地で栽培されているというこのみかんは、独特の爽やかな風味が特徴です。門司港ビールとコラボした「こぶみかんビール」や、当日限定のソーセージを口にした方の笑顔が、まさに地元の資源が新しい価値を生む瞬間を物語っていました。馬場さんと地元トークを繰り広げる中で、北九州特有の「人情の厚さ」を再確認した時間でもありました。

## 市長インタビュー：「潮目が変わった」その先の展望

ステージ後、武内市長に直接お話を伺うことができました。

「北九州市の潮目が変わった。持っているポテンシャルが可視化され、形になってきた。今、みんなが同じベクトルを向けば、ものすごい力になる」

市長が見据えるのは、日本、そして世界の課題解決の中心都市化です。少子高齢化やクリーンエネルギーといった難題に対し、北九州が先駆けて成功例を作り、世界へ発信していく。「課題解決の先進都市」としてのプライドが、市長の力強い眼差しから伝わってきました。そして

このような動きが課題解決だけに留まらずサミットの開催や先進都市としてのブランド力に直結すると考えました。

### ゆうこすさんインタビュー：Z世代へ贈る「失敗が許される街」

続いて、同郷出身のインフルエンサー・ゆうこすさんにお話を伺いました。「北九州が大好きで、ここで仕事をしたいと市長に直談判したんです」と語る彼女。挑戦をためらうZ世代へのアドバイスが、私の心に深く刺さりました。

「失敗を恐れずに挑戦してほしい。失敗を経験して分かることがたくさんあって、それを乗り越えることが成功への一歩になる。北九州は失敗が許される優しい街。」

あたたかく、人情溢れる北九州だからこそZ世代に響くメッセージでした。この言葉は、これから社会に出る私たちにとって、何よりの追い風になるはずです。



### この街を誇りに思うことが北九州市への1番の恩返し

Action! Fesを終えて駅を後にする時、熱気の余韻と共にいつもの小倉駅が、全く違う輝きを放って見えました。

正直に言えば、これまで私はこの街を「知っているつもり」でいただけでした。北九州の可能性に気づくことができず、ないことにしていたのは地元で育った私自身だったのかもしれませんが。しかしこの日、目の当たりにしたのは、世界を見据えて熱弁を振るう市長や、故郷をフィールドに挑戦し続ける登壇者の方々、そして伝統を新しい食の形に変えて発信する店主たちの姿です。私が「元気がなくなっていく」と勝手に思い込んでいた景色は、実は、力強く「Action!」するための助走の最中だったのだと気づかされました。

そして登壇者の方々が共通して持っていたのは、この街への圧倒的な「誇り」です。まずは私たちZ世代が今の北九州を正しく「知る」こと、そして北九州のポテンシャルを「信じる」こと。それが、市長の言う「同じ方向を向く力」の第一歩になると確信しました。

新しく誕生したマスコットキャラクターと共に、このイベントが「北九州愛」に火をつけるきっかけになったことは間違いありません。私自身も、この街の活気のために大学生という立場から、もっと深く、面白く関わっていきたくと強く感じました。

北九州市は今、最高に面白いフェーズにあります。皆さんも、この「潮目」の中に飛び込んでみませんか？

